

あしや 芦屋警察署庁舎建築工事

受賞機関 兵庫県県土整備部まちづくり局営繕課
兵庫県県土整備部まちづくり局設備課

はじめに

高級住宅地として全国的に有名な芦屋市は、六甲山から流れる芦屋川を中心に広がる人口8万人余りの阪神間では比較的小さな閑静な街である。

ここを管轄する芦屋警察署は、風光明媚な芦屋川のほとりで市役所にも近く、芦屋の南玄関口である阪神芦屋駅と対峙する立地に恵まれた場所にある。

昭和2年8月に地元の協力を得て竣工した旧庁舎は、わが営繕課発足当初の兵庫県内務局営繕課設計によるもので、当時から地域のランドマークとして市民に親しまれてきた建物であった。

事業の概要

構造：RC造3F（B1F PH1F）

面積：敷地面積：2,359.80㎡

建築面積：943.71㎡

延面積：3,483.16㎡

工事期間：平成11年10月～平成13年3月

事業の特徴

昭和初期の近代建築様式の趣を持った重厚なデザインの建物には、アーチ型の正面玄関に夜間警備の象徴としてミミズクの彫刻や、曲線を駆使した緻密な左官仕上、ワンポイントのステンドグラス、蕨をイメージした鑄鉄製の手すり、金物などいたる所に目を楽しませる工夫が施されていた。しかしながら、県下で最古の警察署庁舎となり著しい老朽化と狭隘



旧庁舎玄関上部ミミズクの彫刻



旧庁舎の階段室



旧庁舎の入口と
復元した建具



旧庁舎3階入口扉は既設使用

さが目立つようになっていたうえに、阪神・淡路大震災の洗礼を受け、必要な警察機能の確保や執務環境の改善の面からも建替計画が進められた。

一方で保存を要望する声次第が大きくなり、象徴的な旧庁舎の玄関部分を含む一角をそのまま残し、その背後に必要な諸室を増築することになった。

増築部分は、保存する玄関を中心として背後に左右対称となるように配置し、外観（仕上げ、色調、窓の形状など）も旧庁舎のデザインをできるだけ踏襲するように努めている。好立地が禍？して風致地区の指定など厳しい制限を受け、やむなく地階を設けたために、市街地の道路や旧庁舎の近接部分での地下工事を余儀なくされている。

旧庁舎は内部の仕上げをすべて撤去して、耐震壁の増設工事やコンクリートの中性化補修工事を実施し、内装を当時に近い形で復元しているが、階高が低いことで増築部分とは完全に分断され、床面積も小さく補完的な用途として使われている。

旧庁舎の玄関を残したまま、来客に便利な増築部分に新しい玄関を設けたことで、新旧2つの顔を持った市民に親しまれる警察署に生まれ変わった。



新設した玄関と増築部分